

銀行名	群馬銀行
タイトル	「ぐんぎんビジネスサポート大賞」の創設
取組み内容	<p>1．動機（経緯、きっかけ等）</p> <p>（1）群馬県には、従来より全国あるいは海外でも活躍する企業が生まれる土壌がある。</p> <p>（2）当行は地元金融機関として創業の土壌を大切にしたい、創業を支援したいとの強い思いがあった。</p> <p>（3）そのような経緯、動機をもとに、新たなビジネスチャンス創造の場を提供し、地域経済の活性化、地域貢献を図ることを目的として「ぐんぎんビジネスサポート大賞」を創設した。</p> <p>2．内容</p> <p>募集期間 平成25年10月1日～平成25年12月13日</p> <p>募集対象 個人・中小企業・団体が開発する革新的・創造的な新商品 ・新製品・新サービス</p> <p>応募資格 次のいずれかに該当する個人・企業・団体 群馬県内に居住する個人または群馬県に本社、営業所を置く中小企業・団体 群馬銀行と取引のある個人・中小企業・団体</p> <p>審査基準 革新性・創造性 成長性・実現可能性 地域経済の活性化・地域への貢献度 経営者の意欲・経営体力</p> <p>審査スケジュール 平成26年1月下旬 一次審査（書類審査） 平成26年2月25日 二次審査（プレゼンテーション・質疑応答） 平成26年4月10日 表彰式・交流会</p> <p>事業化支援 事業プランの発掘から事業化までの各ステージにおいて、資金面をはじめとする各種の支援を行い、事業の成長を継続的に支援。</p> <p>3．成果（効果）</p> <p>（1）応募件数 382件</p> <p>（2）応募プランの事業分野 上位5位 ものづくり サービス 医療・介護 流通（卸・小売） 環境・エネルギー</p> <p>（3）表彰 最優秀賞（300万円）1件 優秀賞（100万円）3件 奨励賞（20万円）5件 努力賞（10万円）4件</p> <p>（4）応募プランへの支援状況 事業化に向けての資金支援 販路開拓、販路拡大のためのビジネスマッチング 専門家のアドバイスを受けるための産学連携機関の紹介 創業補助金 新ものづくり補助金等の補助金申請支援 当行主催の勉強会への参加</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	環境格付融資を活用した設備資金融資の事例
取組み内容	<p>1．動機（経緯、きっかけ等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当行は、環境に積極的に取り組む企業に対し地球温暖化対策のための設備投資を応援するため、環境格付融資の取扱いを開始し、環境への意識の高い企業を中心に提案活動を行った。 ・A社は環境経営を推進していたが、経営基盤の強固（無借金経営）な企業で、当行は新規融資に向けた魅力的な提案を行うことができなかった。 ・新工場建設の情報を入手するも、A社は自己資金での対応を予定し、借入金による資金調達を考えていなかった。 <p>2．内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当行は、環境への意識の高いA社に対して、企業の環境への取組みを金融機関が環境格付により評価する環境格付融資を提案。さらに、環境省が実施する「環境配慮型設備投資緊急支援助利子補給金」を紹介。環境格付に応じた当行独自の金利優遇を行い、国の利子補給金も受給することでA社の金利負担を軽減。 ・環境格付融資を通じて、一般的に企業に求められる環境への取組事項をご紹介しますとともに、企業のエネルギー使用量を基にしたCO2排出量の見える化をアドバイスした。また、環境経営に関するA社の課題を伝え、今後3年間はCO2排出量削減に向けた継続的なフォローを実施していく。 ・以上の一連の付加価値を提供することで、優良先に対する長期設備資金の実行に至った。 <p>3．お取引先にとっての効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境への取組みを強化することで資金調達の幅が広がった。また、自社の環境経営について客観的な評価（環境格付）を受ける良い契機となった。

銀行名	群馬銀行
タイトル	海外で業容拡大を図る取引先への進出支援
取組み内容	<p>1．動機（経緯）</p> <p>（1）支店担当者はA社が取引先が多く進出しているタイへの進出を検討しているとの情報をキャッチし、詳細なヒアリングを行うため本部に帯同訪問を依頼した。</p> <p>（2）本部はタイ投資委員会(B0I)東京事務所に代取を案内して進出手続きの具体的な相談を行い、進出計画が急速に進展した。</p> <p>（3）タイにおいて現地提携銀行派遣中の行員は実績のあるコンサルを紹介し、現地法人設立・B0I(税優遇措置)申請・レンタル工場内装工事業者紹介・人材派遣業者紹介などをサポートした。加えて日本から派遣されていた当社社員の活動を助けて業務提携行での法人口座開設や現地従業員の給与振込口座開設等も行った。</p> <p>（4）操業開始後は新規仕入先として当行取引先のタイ現地法人を紹介するなど、親密な関係を継続している。</p> <p>2．成果（効果）</p> <p>（1）タイ進出関連資金(資本金・親子ローン原資)として私募債を発行し、タイパーツ建の資本金送金を行った。</p> <p>（2）代取が先頭になって取り組んだ海外進出計画に対して、代取の不安に応える有効なアドバイスとサポートができたことで、信頼関係を深め、成果につなげることができた好事例である。</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	群馬県中小企業再生支援協議会（以下、支援協）と(株)地域経済活性化支援機構（以下、REVIC）の連携による私的再生
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <p>当病院は平成元年に個人で開業。開業資金のほぼ全額を借入金で賄ったことに加え、開業以来の赤字資金を借入金で調達したことからピーク時の平成 8 年には 12 億円超の借入を抱えることになった（当行一取引先）</p> <p>開業後 6 年目以降は、地域医療機関としての認知度が向上するとともに経営も軌道に乗り、借入金は約 7 億円まで減少した。</p> <p>しかしながら、ここ数年は入院件数の伸び悩み等から売上・キャッシュフローが減少基調にあり、毎年見直している年間返済額も減少傾向にあった。</p> <p>平成 24 年 9 月、当行は債務者の顧問会計士とも協議のうえ、重い借入金の利息支払いを軽減するため、資本金借入金（DDS）実行による経営改善計画案を策定し債務者に提案した。一方、債務者は当行とは別にアドバイザー（弁護士、会計士、税理士）とともに債権カットの検討を進め、DDS の提案ではメリットが薄いと判断し、債権カットを要請してきた。債権カットに応じない場合には法的破綻も辞さないとの発言を受けため、当行は弁護士を代理人として交渉を進めるとともに REVIC へ相談した。</p> <p>REVIC とともに債務者の説得に努め、債務者も納得したため上記アドバイザーとの契約は解除となった。</p> <p><再生スキーム></p> <p>医療法人を新規に設立し、病院事業を個人から法人へ承継する。</p> <p>当行は院長個人の債権を「ぐんま中小企業ファンド」に時価（病院不動産相当額）で売却する（当行債権放棄額約 4 億円）</p> <p>当行は新規医療法人に病院不動産買取資金を融資（実質リファイナンス）する。</p> <p>医療法人は当該資金により病院不動産を買い取る。院長は病院不動産売却代金によりファンド債権の一部を弁済する。</p> <p>院長個人は破産申立を行い、ファンドは残債権の免責を得る。</p> <p>【お取引先にとっての効果】</p> <p>新規医療法人への病院事業の承継により地域医療機関として患者及び病院職員の雇用を守ることができた。</p> <p>当行債権放棄（約 4 億円）の実施により支払利息の大幅軽減が図れた。</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	外部コンサルタントを活用したD D Sによる財務改善と新規与信を組み合わせた企業支援
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <p>T社は、住宅建材関連の製造業者。リーマンショック以降の住宅市場の低迷の中、主力先のTM工業からの受注が半減、売上高が大幅に減少し、H22年3月期に営業赤字、債務超過に転落し、H23年3月期には、赤字幅がさらに拡大した。</p> <p>また、内的要因では、各部門・現場で責任者を配置しているが管理体制が脆弱で、各現場の責任者の資質・技量に採算が左右され、横断的な管理体制ができていなかった。</p> <p>そこで、債務超過にある同社の存続を支援するため、当行と外部コンサルタントが連携し、デューデリを実施。</p> <p>管理体制の見直し及びD D Sによる財務改善と、新規受注に必要な設備投資への融資を、組み合わせた実抜計画を策定した。</p> <p>【お取引先にとっての効果】</p> <p>設備投資資金の資金繰りを懸念することなく、新規受注を獲得することができ、D D Sにより財務改善が図られた。</p> <p>計画実行についても、引続き、外部コンサルタントが関与することとなり、改善指導が進んでいる。</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	業績不振先に対するABLを活用した金融支援事例
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <p>S社は国内自動車メーカーの一次下請けに位置するプレス金型設計・製造業者であり、当行シェア40%超のメイン先。</p> <p>H19年に総額4億円（当社年商規模）の大型設備投資を実施するも、H20年8月のリーマンショックの影響で受注減少、過剰設備に陥り、決算上は黒字を維持するも、資金繰りは逼迫し、H25年5月に再生支援協議会（支援協）へ支援を要請し、同時に全行の元金弁済停止の措置を講じ、資金繰りを維持した。</p> <p>H25年9月に外部コンサルタントによるデューデリを実施したところ、売上計上方法などを含め全般的に管理が杜撰で、実態は大幅債務超過に陥っていることが判明したため、支援協を交え、経営改善計画策定に着手した。</p> <p>早期の黒字化・債務超過解消は難しい状態であったが、足元の受注及び採算性は改善傾向にあることから、単年度黒字化を第一目標とする3ヶ年の暫定計画を策定した。</p> <p>【お取引先にとっての効果】</p> <p>計画には、機械設備を導入し外注費を抑制する案があり、当行はメイン行として、導入する機械（マシニングセンタ）を動産担保としたABLに取り組んだ。</p> <p>また、一時的資金不足に備え、売掛債権・在庫を担保とするABLによるバックアップラインも準備し支援を行うこととした。</p> <p>自動車関連業界の業績改善、新規設備投資効果もあり、業績は計画を上回る状況にある。</p> <p>今後、黒字化定着のタイミングを図り、抜本計画の策定に移行する予定。</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	医療法人の事業承継支援
取組み内容	<p>1．動機（経緯、きっかけ等）</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）当病院の後継者へ事業承継について問題提起を行ったところ、具体的な対策は何もしていないことが判明。 （2）本部事業承継担当が訪問し、課題の現状把握や具体策の提案などを行い、継続的に対応することとなった。 <p>2．内容</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）理事長は高齢で健康問題を抱えており、事業承継対策は急務な状況にある。 （2）後継者（長男）や理事長の妻など推定相続人に集ってもらい、課題の共有を図った。 （3）大きな課題として、出資持分の相続税評価額が高額で、納税資金不足が懸念されていた。 （4）事業承継対策の策定・実行に当たって、専門家（税理士法人）を紹介し、事業承継支援計画を策定、継続対応中である。 <p>3．成果（効果）</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）事業保険の加入による後継者の退職金準備実施。 （2）今後の事業承継対策で、病院への出資持分払戻しや、推定相続人への相続税支払い等に係る融資支援を実行予定。

銀行名	群馬銀行
タイトル	「ぐんぎん経営倶楽部」による経営情報の発信
取組み内容	<p>1. 設立経緯等 平成 24 年 10 月、当行創立 80 周年記念事業の一環として発足。 目的は以下の通り。 (1) 百社百様の企業課題等に対応するための情報提供を行い、取引先との関係強化を図る。 (2) 次世代経営者の育成支援を通じた地域貢献を目指す。 (3) 地域の枠を越えた新たな交流やビジネスチャンスの場を提供する。 会員数 3,550 社 (平成 26 年 3 月末現在)</p> <p>2. 取組内容 (平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月) (1) インターネットを利用した情報提供 A. 「Web 情報サービス」の提供 ～ ビジネス情報や経営情報等が閲覧できる会員専用の情報サイト B. 「メールマガジンの配信サービス」 ・「ぐんぎん経営倶楽部からのお知らせ」(毎週火曜日) ～ Web 情報サービス掲載の新着情報や注目コンテンツ等 ・「ぐんぎん経営倶楽部メールマガジン」(毎週水曜日) ～ 「ぐんぎん Business Report」や各種イベントの開催案内等 「ぐんぎん Business Report」発行回数 54 回 (2) 各種イベントの開催を通じた情報提供 A. 「勉強会」の開催 テーマ別に 6 回 参加者計 409 名 ～ 経営者・管理者、担当者を対象に実務知識習得の場を提供 B. 「第 1 期ぐんぎん経営塾」の開催 6 回シリーズ 参加者 25 名 ～ 若手経営者および後継者を対象に、経営に関する知識を体系的に学ぶとともに参加者同士の新たな人的ネットワーク構築の場を提供 C. 「第 1 回講演会」の開催 参加者 286 名 ～ 講演による情報提供とともに、年 1 回の地域を越えた交流の場を提供 ～ 講演会前に、営業活動支援を目的に参加企業同士の「個別面談」の場を提供</p> <p>3. 成果 (効果) ・勉強会では、参加者同士の名刺交換が活発に行われている。 ・経営塾では、知識習得とともに参加者同士の親睦が深まり、終了後も活発に交流が行われている。 ・講演会前に行った「個別面談」では、新規取引に至ったケースも見られた。</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	医工連携の推進について
取組み内容	<p>1．動機（経緯、きっかけ等）</p> <p>群馬経済研究所のアンケート調査によると、県内主要産業である自動車部品製造業の回答企業のうち 33.9%が他事業への参入を検討している。中でも医療・健康・介護関連に注目する企業が多いことが確認された。</p> <p>こうしたなか群馬県では、がん特区の認定をきっかけとした医療機器産業全体の活性化を目指している。県からは、“医工連携の成功には、モノづくり企業を熟知し、かつ資金提供面に対応できる金融機関との連携が欠かせない”と当行への医工連携参加への要請が強い。そこで、当行では、金融面での支援、技術と現場の橋渡しなど積極的に医工連携に取り組み、地域経済活性化を目指していく。</p> <p>2．具体的な取組内容</p> <p>当行の取組方針としては、がん医療関連に限らず「全方位的な医療機器」を対象に、医療機器産業参入を目指す地元モノづくり企業の販路拡大・業績向上・資金ニーズの拡大を図り、地域活性化に結びつけることである。タイムスケジュールとしては、医工連携は1～2年といった短期で結果を求めるものではなく、長期スパン（5年～10年）で取り組む。</p> <p>（1）「医療・介護の現場見学会」や情報交流のためのセミナー、補助金などの説明会を適宜行い、モノづくり中小企業が新たに医療機器産業に参入しやすい環境づくりを進める。</p> <p>（2）当行が集めた医療機関の課題・ニーズや、県内モノづくり企業の技術力・開発力と、県が集めた情報（医療機関や大手製造販売者などに対する情報）を擦り合わせ、県との連携強化を図る。モノづくり企業の課題解決に向けては、知財や薬事、マッチングなどに精通したコーディネーターと連携して取り組んでいく。</p> <p>3．成果（活動実績）</p> <p>（1）連携セミナーの開催 開催日：平成 25 年 12 月 11 日、参加者数：138 機関 205 名</p> <p>（2）マッチングに向けた情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関・介護施設のニーズ情報のヒアリング ・当行取引先モノづくり企業の技術力（シーズ）に関するヒアリング <p>（3）群馬県との連携活動として、「群馬県医療関連ものづくり企業ガイド」の作成時の協力</p> <p>（4）介護施設の現場見学会の開始 開催日：平成 26 年 5 月 22 日、参加企業 10 先</p> <p>（5）モノづくり企業に対する県内大学との共同研究への参入支援 2 件</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	社会貢献活動の実施
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 「よき企業人であるためによき市民であること、これが私たちの活動の基本です」という企業理念に基づき、地域の一市民として、地域社会の役割を果たすために社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【取組み内容】</p> <p>1．金融経済教育への支援</p> <p>（1）「エコノミクス甲子園群馬大会」の主催 ア．平成 23 年より、高校生を対象とした金融経済教育の場としてクイズ形式で金融の知識を学ぶ機会を提供。 イ．平成 25 年の参加状況 11 校 21 チーム（42 名）</p> <p>（2）高校生の本店見学受け入れ ア．各高校で実施している「キャリア教育」の一環で実施している職場見学の場として本店の見学を受け入れ（平成 25 年度 4 校で実施）。 イ．本店営業部で窓口業務、出納業務などの見学、現金センター見学、銀行業務や社会における金融の役割などのレクチャー実施。</p> <p>（3）小中学生の職場見学受け入れ 地元の小中学生の職場見学、職場体験の場として支店見学を受け入れ。</p> <p>2．スポーツ振興への支援</p> <p>（1）バレー部によるバレーボール教室の開催。 （2）「ぐんぎん杯ママさんバレーボール教室」の開催（平成 25 年～）。 （3）群馬県民マラソンへの協賛と行員のボランティア参加。</p> <p>3．芸術・文化振興への支援</p> <p>（1）群馬交響楽団の賛助会員になるとともに、定期演奏会への協賛を実施。 （2）群馬の風土を記録した「新春特別番組」を地元テレビ局で制作。番組の DVD を県内の学校に寄贈。 （3）「富岡製糸場・絹産業遺産群保護活動応援ファンド 愛称：群馬の絹遺産」を取扱い、信託報酬の一部を「富岡製糸場と絹産業遺産群」の保護活動に寄付（平成 26 年 6 月 23 日取扱開始）。</p> <p>4．地域活動への参加 町内会活動、清掃活動、商工会議所活動、地域のお祭りへの参加。</p> <p>【取組みの効果】</p> <p>1．社会貢献活動への取組みを通じて、地域の一市民として地域社会における役割を果たしていく。 2．金融経済教育への支援では、「エコノミクス甲子園」や本店見学に参加した生徒より好評を得ており、金融経済教育の場を提供する目的が達成できた。</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	環境問題への取組み
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 平成 21 年 5 月に「群馬銀行環境方針」を制定し、環境問題への積極的な取組みを行っている。</p> <p>【取組み内容】</p> <p>1．当行の取組み</p> <p>（1）商品・サービスを通じた取組み</p> <p>ア．低公害車購入者のマイカーローン金利を優遇。 省エネ住宅設備向け専用ローン「エコ計画」の金利を優遇。</p> <p>イ．「自然環境保護ファンド 愛称：尾瀬紀行」を取扱い、信託報酬の一部を尾瀬保護財団へ寄付。</p> <p>ウ 環境配慮型私募債を取扱い、環境に配慮する企業の資金調達費用を軽減。</p> <p>（2）その他の取組み</p> <p>ア．一部店舗に太陽光発電設備を導入。また、本部等に省エネタイプの空調、照明機器を積極的に導入。</p> <p>イ．「クールビズ運動」の実施</p> <p>ウ．群馬県と「県有林整備パートナー事業実施協定を締結。赤城山内の県有林 3.69ha を「ぐんぎんの森」と命名し平成 24 年から整備を進める。毎年、新入行員研修で間伐・枝打ち作業を行い、行員の環境意識向上に役立っている。</p> <p>2．公益財団法人群馬銀行環境財団の取組み</p> <p>平成 7 年に企業理念である「地域社会の発展を常に考えて行動すること」の実践活動の一環として公益財団法人群馬銀行環境財団を設立。快適で健全な環境の整備・保全を目指して助成活動や啓発活動を実施。</p> <p>（1）「環境財団賞」や「教育賞」を設け、優れた環境活動を実践している団体等を表彰し、助成金を交付する。</p> <p>（2）「環境探検隊（中学生対象）」や「エコキッズキャンプ（小学生対象）」を実施。イベントを通じて環境問題について体験学習を行う啓発活動を実践している。</p> <p>（3）群馬県の実施する「環境にやさしい買物スタイル普及活動」に協賛し、特製マイバッグを作成し無料配布を行う。</p> <p>【取組みの効果】</p> <p>1 地域社会における環境の取組みに対する支援や当行としての主体的な環境問題への取組みを通じて、銀行としての社会的責任を果たしていく。</p> <p>2．こうした取組みを通じ、行員の環境問題に対する意識の向上を図っている。</p>